

雲の上のまち



た報

けすばら



栲原こども園入園式（りす組）4月7日(木)

施政方針

栲原町の組織機構及び職員配置表

栲原町森林組合通常総代会開催

集落活動センター「おちめん」開所

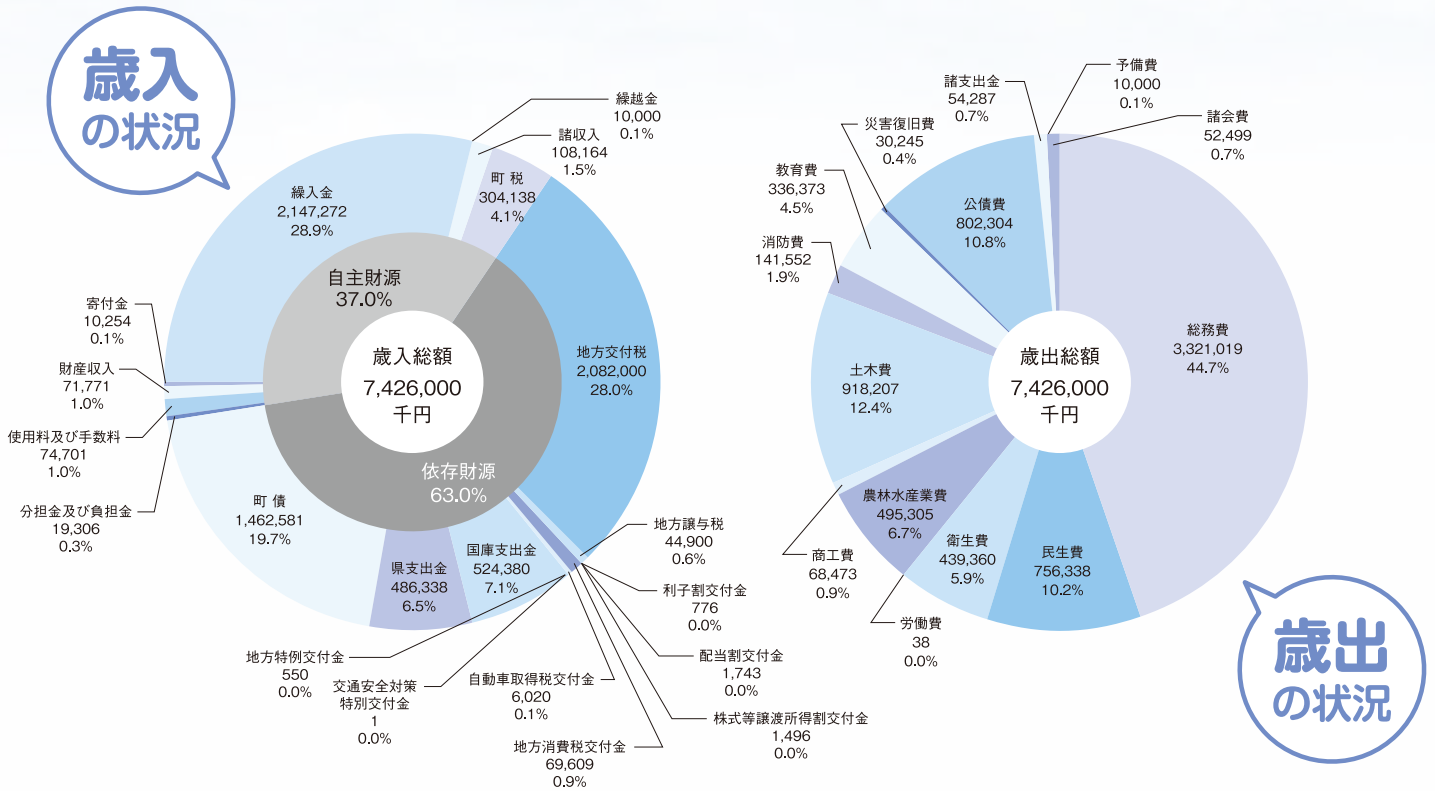
etc...

4 **2016**
 <平成28年>
 No.694
月号

- 世帯数/1,793 (2月末)
1,787 (3月末)
- 人 口/3,658 (2月末)
3,650 (3月末)
- 出生… 2 ○死亡… 7
- 転入… 33 ○転出等… 36

平成28年度 一般会計予算 74億2,600万円

梶原町 一般会計当初予算の状況



▶ 一世帯当たり、一人当たりの予算状況

会計名	予算額(千円)	一世帯当たり予算額(円)	一人当たり予算額(円)
一般会計	7,426,000	4,760,256	2,058,204
松原診療所特別会計	18,700	11,987	5,183
四万川診療所特別会計	8,800	5,641	2,439
国民健康保険特別会計	641,000	410,897	177,661
後期高齢者医療特別会計	58,800	37,692	16,297
介護保険事業特別会計	529,000	339,103	146,619
簡易水道事業特別会計	362,400	232,308	100,443
農業集落排水事業特別会計	33,700	21,603	9,340
下水道事業特別会計	83,700	53,654	23,198
風ぐるま事業特別会計	52,300	33,526	14,496
病院事業会計	589,404	377,823	163,360
計	9,803,804	6,284,490	2,717,240

平成28年度施政方針

第325回梶原町3月定例議会が、3月7日(月)から11日(金)まで開催されました。矢野町長は平成28年度に臨み、次のように施政方針を述べました。

●町制施行50年・

一世紀のまちづくりへ

「ゆすはら」を繋ぐ年

本町は、昭和42年に「梶原村」から「梶原町」へ改称して以来、平成28年で町制施行50周年の節目の年を迎えます。

この間、時代は昭和から平成へ、20世紀から21世紀へと移り変わり、国と地方、地方単独か合併、広域連携の選択、そして地方創生、地域の生きる仕組みづくりへと、地方自治を取り巻く環境は大きく変化してきました。

先人が、そうした激動する時代の変化を捉え決断と実行を繰り返しながら、伝統と文化を引き継いできた「梶原町」を、今を生きてきた私達はしっかりと捉え、過去に学び、次の100年に引き継いでいかなければなりません。

そのためにも、本年は「梶原町

まち・ひと・しごと創生総合戦略(小さな拠点ゆすはらづくり)」を確実に実行して、「ふるさと梶原」を未来へ継続的に「繋ぐ」年であります。

未来を見つめながら、町民の皆さんと地域資源を生かし、目的を共有し、自信と誇りをもって人口減少に立ち向かいたいと考えております。

●梶原町の自治経営の基本

その「小さな拠点 ゆすはらづくり」の基本は「自立」であります。自立ということの意味は、自分で完結することではなく、周囲と様々な関係を築き、資金の提供を受け、それに見合う価値を生み出している状態のことです。その価値とは、財貨のみのことではなく、人が役に立っていると思ふ物やサービスのことであります。

また、「経営」と言う言葉の意味も、金を儲ける活動のことではなく、経営の本質は社会に役立つ価値を生み出し、社会から支持されることで生き残り発展する活動の

ことでもあります。

そうした基本をもって、目指す社会に向けて、時間もかかりますが、着実に歩を進めながら歴史と文化を引き継いでいかなければなりません。

●着実に進めてきた環境整備

常に変化する社会の中で、本町を取り巻く環境も大きく変わってきました。

命の道については、国道、県道、町道等の整備が進み、人、もの、情報の流れが大きく拡大しております。

加えて、町内全世帯に引き込んでいる光ファイバー網の活用など、不利な条件を一気に解消する基盤も充実してきました。

また、命の水の確保や住宅の耐震対策、がけ崩れ住家防災対策、合併処理浄化槽の整備及び

空き家改修等により、移住・定住の柱の一つである住環境の整備が大きく進んできました。

そうした住環境の充

実と移住定住コーディネーターや移住者を支える町民によるサポーターの体制充実により、移住者は増加傾向となりました。

また、地勢条件も変わってきており、農政、林政、商工観光の各コーディネーターを中心に、やる気のある方々とともに、生産から加工、販売までの仕組みづくり、六次産業化に向かって取り組んでいるところがあります。

保健・医療・福祉のまちづくりでは、梶原町社会福祉協議会の法人化、各種福祉団体や医療機関等と連携して地域包括ケアシステムの充実を図り、「予防重視・在宅重視」の仕組みづくりに取り組んでおります。

梶原を担う梶原人づくりでは、





写真：交流会（間伐講習／川井地区）

「保幼小中高一貫教育」を目指して、「梶原町一貫教育支援センター」の充実と保護者、教員、教育委員会が常に問題と目的を共有し議論する仕組みづくりに取り組んでおります。

さらに、「ゆすはら産業担い手育成塾」を昨年創設し、その下に森づくり担い手育成塾、土づくり担い手育成塾及び商い担い手育成塾の三つの専門塾を立ち上げ、塾に塾長を配置して、3年間で技術

や知識、経営学を学ぶ仕組みをつくりました。本年度は塾の充実と塾生の確保に積極的に取り組みます。

●国・県の動向

国政は、昨年第三次安倍改造内閣が発足しましたが、安全保障関連法案問題、憲法問題、消費税の軽減税率問題、大筋合意した環太平洋連携協定問題（TPP）、原発・エネルギー問題、外交問題など、この国、日本の生き方を決めなくてはならない重要な年であり、また、本年の参議院議員選挙から選挙年齢が18歳に引き下げられることや、高知県と徳島県のように一部の県で「合区」となるなど、新たな仕組みのスタートの年でもあります。

そうしたことを踏まえると、数の論理でなく、しっかりと将来を見据えた議論の中で、「安心して生活ができる」決断を望むところがあります。

そうした中で、1月には、平成27年度補正予算が国会で決定され、3月1日に、一般会計予算総額96兆7,218億円と過去最大の平成28年度予算が衆議院本会議で可決され、年度内成立が確定しました。

一般会計の歳出総額は過去最大規模となっており、公共事業費や農業、教育関連予算が昨年度並みかそれ以下となるなかで、社会保障費は31兆9,738億円と過去最大を更新、地方活性化の目玉として今回も1兆円の「創生枠」を計上し、経済再生と財政健全化を同時に達成する予算とし、全国津々浦々に景気回復の成果を届けたいとしておりますが、本町の財源を大きく左右する地方交付税は3年連続減額という大変厳しい予算となっております。

一方、尾崎県政は「さらなる県勢浮揚を目指し、飛躍への挑戦を続ける」こととし、中山間地域対策を加えた七つの重点施策を引き続き推進していくこととしております。

産業振興計画や南海トラフ地震対策、教育改革などで、平成28年度一般会計は前年度比0.9%増の4,625億円で、8年連続の前年度比プラスを計上されております。

また、東日本大震災以降、世界で、全国各地で、地震や集中豪雨、火山の噴火、豪雪など、地球温暖化が進む異常気象の中で、危機管理体制の整備充実が急がれております。



写真：避難訓練

本町の予算は、こうした国・県の動向を踏まえ、本町の課題解決に向けて、国・県への依存型の財政構造は変わりありませんが、梶原町まち・ひと・しごと創生総合戦略のスタートの年として、「住民の不安の解消」や「福祉施設の充実」、「産業の振興」、「移住・定住対策」、「人づくり」を重点に、六つの社会づくりを推進するため、一般会計では前年度比42%増の74億2,600万円と、これまでになく大きな予算額となり、11特別会計を合計しますと単純合計で前年度比30.5%増の106億9,6

80万4千円の子算規模となりました。

その内容につきまして、六つの目指す社会ごとに説明します。

● 梶原ならではの保健・医療・福祉が充実した社会

▽ 福祉のまちづくり

地域福祉の拠点となる複合福祉施設の整備と合わせて、福祉のまちづくりの一翼を担う梶原町社会福祉協議会の充実を図るために、保健福祉支援センターに隣接して事務所を建築し、気軽に相談できる場所としての機能、そして、保



写真：健康づくり発信事業（越知面交流センター）

健福祉支援センター及び梶原病院との連携がいつでもできる仕組みとし、住民の不安の解消と住民サービスの向上に積極的に努めます。

さらに、在宅を中心に、高齢者の移動手段の充実や「自分の健康は自分で守る」ことを合言葉に、森林セラピー基地・ロードや雲の上の温泉・プール及び「集落活動センターはつせ」の岩盤浴サウナ等の地域資源を生かした健康づくりの仕組みづくりを行い、町と区・集落活動センター、町内各種団体及び住民が総合的に連携できる仕組みをつくりながら、予防型社会を目指します。

▽ 地域医療体制の充実

町民の命を守るために、電子カルテを充実し梶原病院を中心に、四万川・松原診療所、梶原歯科診療所及び梶原町社会福祉協議会との連携により治療活動の充実と予防に取り組みます。

また、本年は、全国国民健康保険診療施設協議会会員や全国の医師、看護師等関係者が本町に一堂に会し、保健・医療・介護・福祉（統合）による地域包括医療・ケアの推進を図るために、視察・研究・協議を行うことを目的とした第30

回地域医療現地研究会が開催されます。まさに、本町が進める地域資源を生かした地域包括ケアシステムの実現を図るための大きな力となるものであり、町民の皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

▽ 医療保険事業

国民健康保険制度は、市町村が運営し国民皆保険制度を根幹から支えてきたところであり、平成30年度からは都道府県に運営を移管し規模を大きくして、財政基盤の安定を目指すこととなりました。本町は、昨年にと続きまして住民の負担を増額しないで、安心して医療を受けられる制度として、より一層の適正な事業運営に努めます。

● 高齢化と過疎地域でも災害に強い社会

いつ、どこで、何が、どのように起こるか分からない異常気象の社会の中で、高齢化が進み若い人が少ない地域では、個人の力だけでは対応できない火災や自然災害に対応できる社会の支援の仕組みが重要になっております。そのためには、

- マンパワーの確保
- 災害を防ぐ準備

○災害発生状況の確実かつ正確な情報の伝達・収集

○災害を最小限に抑える応急措置

○被災後の復旧を早くする対策

の五つが欠かせない要素であると捉えて、自主防災組織と消防団及び行政と連携し、危機意識を高めるミニ講座や防災訓練により危機管理体制と計画的に防災施設、備蓄品等の整備の充実に努めます。

▽ 「命の道」の整備

道路は、私たちが生きるための最も重要な社会基盤であります。その生きる手段であります国道197号「野越バイパス」については、



写真：待ち望まれる改良工事（鷹取地区）

トンネル工事に着手するとともに、町中心地から松原に至る町道佐渡鷹取線改良事業は早期完成に向かつて積極的に取り組みます。

また、主要地方道の未整備区間については、早期整備に向けて工区の設定や危険個所の改修に向けて要望活動に努めます。

さらに、生活道の町道や農林道につきましても、継続的な整備と住民の皆様の日常生活を守り、安全安心な暮らしの確保に向けて町道の橋梁修繕及び耐震計画により、順次改修に努めます。

●暮らしの安定と

産業の振興・発展した社会

暮らしの安定を図り、生活をす
る上で働く場所の確保は、欠かす
ことのできない定住の大切な基本
条件であり、農林業・産業の振興
は、本町の重要なテーマでありま
す。

そのために、農業、林業、商工
観光の各コーディネーターと梶原
町森林組合、梶原町商工会、津野
山農業協同組合をはじめ町内の各
種企業・団体はもとより、昨年設
立した「ゆすはら産業担い手育成
塾」としっかり連携し、人材育成
から、生産、加工、販売までのそ
れぞれの生きる仕組みづくりの確

立に向かつて積極的に支援しま
す。

▽付加価値の高い農・畜・林等 一次産業の振興

一次産業の振興

農業では、安定した収入に繋が
る施設園芸栽培農家への支援の継
続と少量多品目を中心としたやる
気のある生産者自らが一体とな
り、生産から販売までお金にかえ
る経営を行う組織づくりを支援し
ます。

畜産では、地域資源を生かした
夏山冬里方式が定着し、畜産農家
で飼育される牛の頭数も徐々に増
加傾向であり、飼育牛の増頭に要
する資金の貸付基金を増額して、
多頭飼育に向けた支援をします。

J A津野山は、平成31年の農協
の統合に向けて横貝肥育センター
の委託運営の取り止めを決定して
おり、また、津野山畜産公社も今
後の人材確保が厳しい状況となっ
ております。

しかし、畜産は津野山地域の太
きな経済の柱の一つであり、今後
の畜産経営の在り方を含めて、津
野山事務組合が中心となり、畜産
農家をはじめ関係機関としっかり
検討をします。

林業では、高知県内の木材利用
が木質バイオマス発電の原材料な

どエネルギー分野への利用、C L
T(厚型パネル)工法の建築物へ
の取り組みなど利用体系が大きく
変わってきました。

このため、森林所有者との意見
交換を行いながら森林の育成方法
(ブリーニング)について、生産財、
環境財としての育成を見直しなが
ら、林業経営の安定を図るために、
伐採を進める搬出経費について、
支援体制の充実を図るとともに、
担い手育成と経済の循環に繋げた
いと考えております。

商工業・観光では、梶原の地域
資源を生かした「食」文化を高め
るために、各商店等が企画立案し
商品化しようとする事業を支援
し、梶原のブランド化を進めます。

また、ふるさと納税の推進によ
り地域経済の活性化、返礼品に「特
産品の活用」をすることによる地
産外商の推進や「ゆすはらグルメ
まつり」、さらに、高幡広域内の「奥
四万十博」を開催し、新たな観光
資源の掘り起しと5市町の人と人
を繋げる仕組みづくりを行いなが
ら、平成29年3月から高知県が展
開する「歴史博覧会」に繋げるこ
とにより、継続的な消費拡大によ
る商店街の活性化と経済の循環を
図りながら観光振興に取り組みま
す。

さらに、町内の自然資源である
植物及び生物の価値を高める為
に、武蔵野大学と連携し調査・研
究・書籍策定に取り組みたいと考
えております。

▽自然や環境に配慮した くらしの推進

くらしの推進

職員の技術の向上により良質な
堆肥が製造できている「土づくり
センター」の充実を図り、循環型
社会づくりに取り組みます。

また、ゴミを出さない取り組み
について「梶原町廃棄物減量等推
進委員」の方々が、活発な調査研
究を行っていただいております。本年
は、その委員の方々が自ら「ゴミ
減量のモデル家庭」として、実践
し見える化を図っていただくこと
になっておりますので、情報提供
と啓発活動をはじめ、より一層の
支援によりゴミの分別と減量化に
取り組みます。

鳥獣害対策につきましては、さ
らに猟友会の方々と連携して年間
を通じた駆除対策を行います。

環境先進企業との協働の森づく
り事業も10年目の節目の年を迎え
ております。このため、高知県を
中心に、本年は第1回会議開催地
の本町で、新たな視点での各企業
との連携を図ることを目的に会議

を開催することとなりました。この会議を全国や世界で活躍する企業の方々の親交を深める機会とし、さらに環境モデル都市として、再生可能エネルギーの自給率100%に向けての調査研究と清流四万十川の水質保全を図るために、合併浄化槽のより一層の推進に努めます。

●自信あふれる^{ゆすはらびと}梶原人を育てる 教育の確立した社会

将来の本町のまちづくりを担う元気な子どもたちを育むために、「梶原町教育施策の大綱」に基づき、家庭・地域及び子ども園・学校・行政が、それぞれの役割を果たすために、目的の共有と協働作業に取り組みながら、本町の地域全体で子どもたちを守り育てたいと考えております。

地域に残る人材育成並びに、高等教育への経済的な支援として、奨学金制度の充実を図ります。

特に、子育ての支援体制に向かって「梶原町一貫教育支援センター」の充実を図り、0歳から18歳まで、知育・徳育・体育・食育のバランスの取れた子供たちの育成に努めます。



写真：学校応援団の活動状況

▽保幼小中高の一貫教育の推進

幼児・児童・生徒の発達段階を踏まえた教育活動の連続性を図るため、保幼小中高を連続したものと捉え、幼保連携型認定こども園としての広い視野での育成や学校種間の壁をなくした「教育課程の編成・実践」や「指導方法の工夫・改善」などを通じた仕組みづくりに努めます。合わせて、発達障害をはじめ特別支援児童への支援制度の充実にも努めます。

さらに、学校、地域、PTA、一貫教育センター及び教育委員会の連携により、一貫性をもって梶



写真：こども園餅つき

原人の育成により一層努めます。また、梶原高等学校野球部の活躍や海外留学制度により魅力ある高校として、梶原高等学校を選択する生徒が増加しており、活力あふれるまちづくりに向かって今後ますますに支援体制を強化します。

▽生涯を通じて主体的に楽しく 学ぶ場づくりの推進

健康で豊かな人生を実現するためには、学校卒業後の社会人もその志向や職業等に応じた様々な学習をすることができ環境が必要であり、情報化社会の機能も活用

しながら生涯学習の推進を図ります。

また、平成29年3月から高知県が展開する「歴史博覧会」に向けて「第5回龍馬脱藩マラソン大会」の充実を図るとともに、地域力を高めながら健康づくりと体力増進に取り組みます。また、「梶原雲の上スポーツクラブ」を継続し、住民のニーズに応え、種目の充実を図り、住民自らが主体的に進める仕組みづくりに取り組みます。

▽伝統文化を引き継ぐ「芸術祭」

本町の千百年の歴史・伝統文化を未来に引き継いでいくために始めた「芸術祭」は、本年は「手芸・工芸」をメインに取り組みたいと考えております。

その第一段階での発信として、「ゆすはら未来大使」であります隈研吾さんのご支援により、本年の役場の目標である「伝え合う・語り合う・支え合う」という「声」をテーマに表現したオブジェ「受話樹」を総合庁舎に展示したところであります。

町民の皆様方とともに、地域資源を活用した多くの作品の展示や考え方、作り方を学びながら伝統文化を引き継ぐ「人づくり」に向かって取り組みたいと考えており

ます。

梶原町史4巻と「広報ゆすはら」の縮刷版を図書及びCD化して、伝統文化を未来に引き継いでいきたいと考えております。



写真：フィルハーモニー楽団との共演

●人の尊厳が守られ「絆」を大切に にする社会

▽梶原町まち・ひと・しごと創生
総合戦略「小さな拠点ゆすはら
らづくり」に向かつて

先人は、「ゆすはら」という言葉
を大切にしながら激動の時代の
中を、絆を磨きながら誇りと自信
をもって、今日の「梶原」を守り、
育て、築きました。

その絆の文化が今もなお、家庭
から地域社会にまで広く引き継が
れております。

私は、まちづくりのキーワード
である「絆」の良き面をさらに磨
き「自立」する地域をつくること
が、梶原が生きる手段であると考
えて、昨年策定した「梶原町まち・
ひと・しごと創生総合戦略」の「小
さな拠点 ゆすはらづくり」を着
実に進めます。

その一つ目の「人と人の絆を大
切にするまち」づくりについては、
国土交通大臣から全国で35か所の
重点道の駅の一つに選定された
「太郎川公園の再生」に向けて、
人の健康の再生の場「新しい道の
駅ゆすはら・丸ごとクリニック」
として、現地の調査をはじめ様々
な方々との意見交換会など、しつ
かりと検討を重ねたいと考えてお

ります。

二つ目「支え合う集落活動セン
ター」との連携づくりについては、
「小さな拠点」として、地域づ
くりの範囲を「区」単位として進
めており、その拠点となる「集落
活動センター」を設立するための
支援と設立後の経営の安定化に向
けて、活動の充実拡大の取り組み
や「ゆすはら応援隊」の配置と運
営の財源確保に支援を行います。

また、集落活動センター連絡協
議会の充実を図り、情報の受発信
を図りながら、個々の集落活動セ
ンターが足らないところをお互い
に支え合うことや協働で活動する
仕組みをつくりたいと考えており
ます。

三つ目「保健・医療・福祉・介
護の充実したまち」づくりについ
ては、

町民の「住み慣れた地域で暮ら
し続けたい」の思いの実現に向かっ
て、旧梶原小学校跡地に「ゆすは
ら複合福祉施設（多機能型中間福
祉施設）」の建築に着手します。

これまでは町内で介護生活をする
選択方法は、在宅で介護をする
か、要介護3以上に認定された方
は特別養護老人ホーム「梶原ふじ

の家」を利用するかの、二つしか
無く、不安の中で介護生活をして
いましたが、今回、複合福祉施設
の整備を行うことにより、町外に
転出することもなくなり、安心し
て生活できる環境と新たに雇用の
確保を図るものであります。

また、担い手や働く人が生活す
る拠点「住宅」についても、空き
家改修や竹の藪の旧小学校校跡地
に、計画的に整備します。

四つ目「生きものにやさしい低
炭素なまち」づくりについては、

高知県と四電エンジニアリング
及び本町の3者で基本協定した、
四国カルスト台地への風力発電施
設が設置できるかどうかの調査・
検討を進めるとともに、太陽光発
電や小水力発電等の推進を図り
「環境モデル都市」として、自然
再生エネルギー自給率100%を目指
します。

五つ目「自信あふれる梶原人を
育てるまち」づくりについては、

町内で生きる動植物や建物、自
然環境等全てが「学ぶもの」であ
り、梶原町全域がキャンパスでも
あります。

このため、全域にある資源を図
書として捉え、森の中の丸ごと図



写真：介護教室初任者研修会

書館として位置付けて整備を進めます。

その拠点となる、人と本と文化をつなぐ架け橋となり、子どもから高齢者までの人と人をつなぐ場、また、「知」の拠点として子どもたちの学力向上の場として、わくわくする図書館を旧栲原小学校跡地の「ゆすはら複合福祉施設」の隣接地に建築、着手するとともに、具体的に内容の充実と運営について検討します。

六つ目「移住・定住対策」についてであります。

若い世代の結婚、出産、子育てについては、特に、出生率は女性

の社会に対する信頼の指標とも言えます。この栲原で、子どもを産むことが、母親自身、夫婦にとって、子どもの将来にとって希望につながるかどうか問われております。

そのために、出会いの場づくりの支援はもとより、変化の激しいこれからの社会を生きるための子育て支援として、不妊治療に対して新たな支援制度を立ち上げながら、妊娠・出産・子育て期にわたる切れ目のない支援体制に向かって「ゆすはら子育て世代包括支援センター」の設立を検討します。

そのためにも、空き家改修・住宅整備支援、雇用の場の確保等の条件整備を図るとともに、移住定住コーナー・ダイネーターを総合窓口、全国各地で移住定住のPR活動や移住者をサポートする16名の「暮らそう栲原でサポート町民会議」と連携を図りながら、平成31年度末の人口目標3,960人（平成28年1月末現在3,678人）に向かつて、しっかりと歩を進めたいと考えております。

●「対話と満足度」を高める
役場がある社会

いよいよ、栲原の新たな生き方の始まりであります。

特に、国、県に大きく財源を依存している本町においては、限られた財源で栲原町の地域社会と住民の思いを達成し、いかに生きるか、その生きる仕組みづくりが求められております。

そのためには、様々な情報をもっている役場職員の役割は大きく、職員皆で心一つに、全ての事業を連携する協働作業が必要であります。

その作業を着実に進める為に、企画財政課に「栲原町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進室」を設置し、計画を着実に進めます。

さらに、全ての役場職員との共有をより一層図り、縦横の連携と町民の皆様との目的の共有を図るために、本年も「伝え合う」「語り合う」「支え合う」という、三つの言葉を「目標」とし、取り組みます。

行財政運営が厳しい社会の中で、町制施行50年を迎えました。今を生きている私たちは「ふるさとゆすはら」を絶えることなく、未来に引き継いでいかななくてはなりません。

先人は、時代の変化をしっかりと捉え、決断と実行を繰り返して着実に「ゆすはら」という、地域社会をつくり続けてきました。

そうした中で、今、再び「ゆすはら」を取り巻く「人」の流れが変わり始めました。

その「人」を大切にしてきたのは、「ゆすはら」であります。

いくら、近代化が進んでも、情報が秒単位で世界を駆け巡っても、文化を引き継いでいけるのは「人」であり、「人」が動くことが求められています。

栲原を知り、理解を深め、リーダーになつていただくための導線・コンテンツの形成が必要であります。そのために、町内、広域、県内、県外及び海外にと人と人をつなぐ取り組みを積極的に行います。

20年前に町制施行30年の記念として、20年後の栲原を生きる人々に対して、それぞれの思いを伝える手紙を入れたタイムカプセルを埋設しました。そのタイムカプセルを掘り起して、私は、過去に学びながら、人と人の絆を大切に「栲原人（ゆすはらびと）」づくりに向かつて、職員を督励し町民の皆様への熱き思いを、心一つにすることに意を注ぎながら、「選ばれた町」に向かつて全身全霊を注ぐ所存です。

梶原町の組織機構及び職員配置表

H28.4 現在



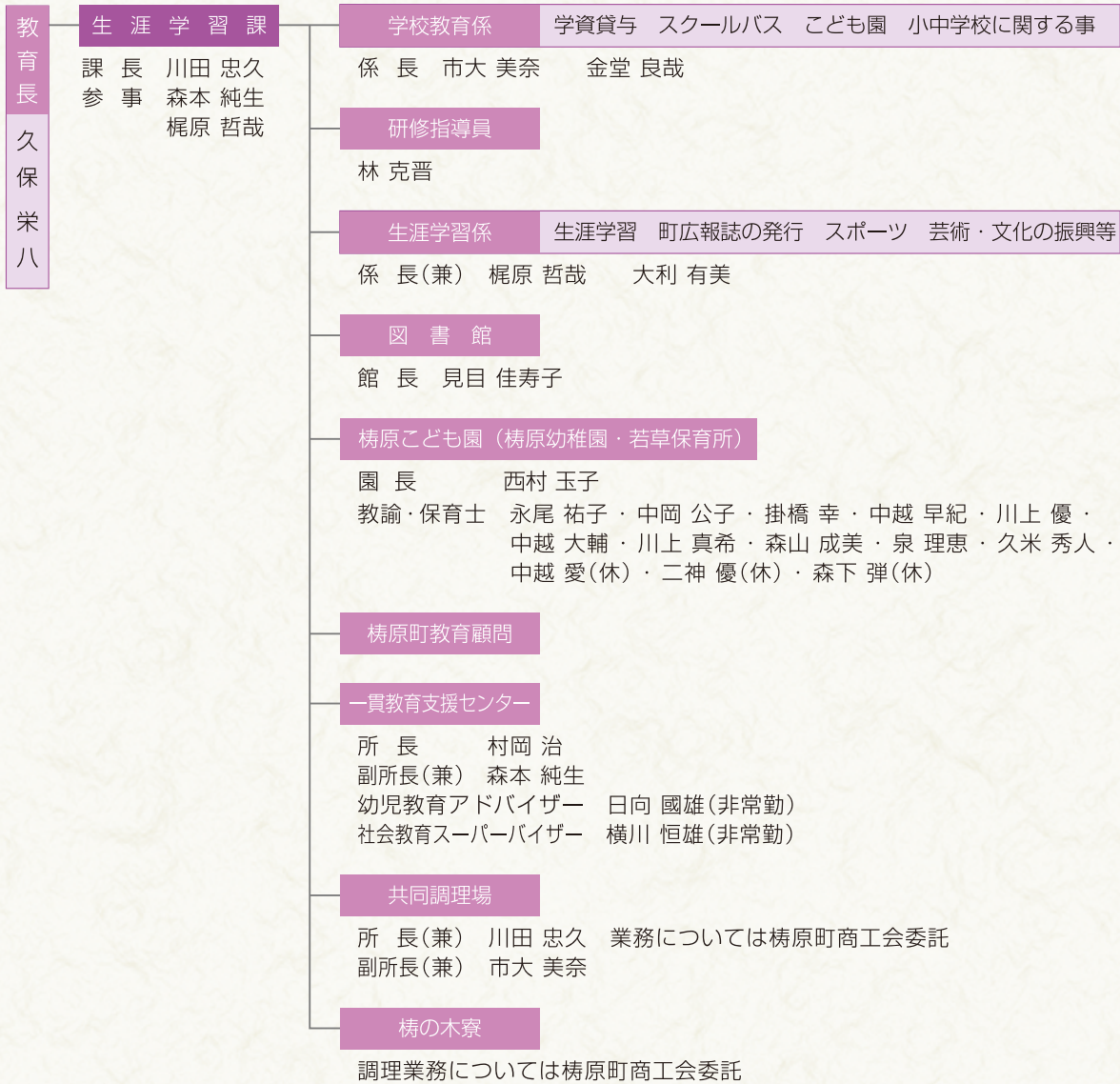
保健福祉支援センター・栲原病院組織機構及び職員配置表

H28.4 現在



教育委員会等組織機構及び職員配置表

H28.4 現在



選挙管理委員会 — **事務局**
局長(兼) 二宮 健志 下村 千佳(兼)・立道 直美(兼)・中越 香菜(兼)・吉岡 まどか(兼)

農業委員会 — **事務局**
局長(兼) 来米 修作 秋田 耕司(兼)

退職者・転任者等

平成28年3月31日付けで、次の方が退職・転任されました。

退職者

- 内田 望 (栲原病院 院長)
- 森實 篤史 (栲原病院 副院長)
- 佐藤 真紀 (栲原病院 医師)
- 西村 佳代 (栲原病院 看護師)
- 山本 正澄 (総務課 課長)
- 中越 祥恵 (こども園 園長)
- 西村 康恵 (こども園 教諭)

研修

- 石田 青鳥 (高知大学医学部 附属病院へ)

生き物に優しい 低炭素なまちづくり

梶原町風力発電基本協定に基づく報告
(現時点での8基設置は断念)

現在、高知県、四電エンジニアリングとの基本協定により、協議を重ねて来ております内容について、昨年10月から本年2月末までの進捗状況を議会に報告をいたしました。基本的には、毎月の会合を重ねているところです。その中で、『送電線と受入れ可能な電力量の両面で、電力量がみだされていないことから2,000kw×8基の16,000kwで計画してきた今回の計画は、現時点では断念せざるを得ない運びとなりました。』しかし、既設風車を接続しております梶原第一発電所は、2,000kwの接続容量が出てきま

したことから、風力発電を設置する、しないに関わらず、また、他のエネルギーを検討するにあたっては、この容量の確保を本町にとってはおく必要があるため協議の結果、この2,000kwを目指して、容量の確保を図っていくことにしました。今後は、引き続き老朽化した風車の建て替え、また売電か、自立型か、収支は見通せるか等様々なことを、基本協定に基づき検討したいと考えています。

環境整備課
環境モデル都市推進室



写真：老朽化が懸念される風力発電

春の人事異動

梶原学園 小学校の部

転入	教頭 山崎康祐 (佐川小学校より)
	教諭 中城真妃 (高石小学校より)
	” 仙石悦子 (精華小学校より)
	” 上岡早智 (窪川小学校より)
転出	教頭 宮本文子 (仁井田小学校へ)
	教諭 西山京子 (多ノ郷小学校へ)
	” 小田隆文 (安和小学校へ)
” 池島 有 (教育センターへ)	

梶原学園 中学校の部

転入	教諭 富澤法明 (北陵希望が丘分校より)
	” 白瀧知之 (大野見中学校より)
	” 橋元大地 (窪川中学校より)
	栄養教諭 西山光里 (新採)
転出	教頭 和田礼史 (県立高知南中学校へ)
	教諭 石村祐子 (興津中学校へ)
	” 宮崎恵美 (東津野中学校へ)
	” 浦田泰良 (安芸市中学校へ)
	” 藤澤和代 (大豊町中学校へ)
養護教諭 久川 繭 (久礼小学校へ)	

梶原高等学校

転入	校長 高橋志治 (追手前(吾北)高校より)
	教頭 山本由美子 (須崎高校より)
	教諭 岡本理香 (伊野商業高校より)
	” 山本直子 (春野高校より)
転出	” 濱田万里奈 (岡豊高校より)
	校長 上岡美保 (教育センターへ)
	教諭 森澤清規 (高岡高校へ)
退職	” 伊与田美紀 (須崎工業高校へ)
	教頭 中越敏博

平成28年度

梶原町森林組合 通常総代会開催



3月24日(木)、平成28年度通常総代会を、町、町議会、県出先機関、関係団体の臨席のもと、総代員数196名中、127名(実出席89名、委任状13名、書面25名)の出席を得て、地域活力センターで開催しました。

組合長挨拶に引き続き、来賓の吉田尚人副町長、黒岩準彦須崎林業事務所長、野島常稔森林組合連合会代表監事から祝辞をいただき、議長に土釜清町議会議長が就任し、第一号議案から第十号議案まで慎重な審議が行われ、全議案が提案どおり承認されました。

● 組合長挨拶の要旨

27年度の組合事業につきましても、FSC森林認証が平成12年に認証を取得して15年が経過し、1期5カ年の第4期目を迎えることとなり、8月に更新審査を受け森林認証(認証面積113,396ha、私有林の82%が認証林)また、加工流通過程認証(COC認証)

も継続することができました。

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックでは、主会場となる新国立競技場ほかへの建設資材として認証材の使用が決定され、FSC認証材の木材販売拡大が期待されます。

また、新国立競技場のデザインを担当された隈研吾氏と梶原町との繋がりの中で、「梶原のFSC材」が建築、木材業界などの関係者で注目をされる事となり、引き合いが多くなってきました。こうした機会を生かし、FSCブランドによる梶原産材の販売に努力をしていきます。

販売・林産事業については、人材の確保、育成を進めると共に、高性能林業機械の導入や林内路網等の基盤整備を進め、原木の生産、取扱量も大幅に増大しました。

特に間伐材及びペレット原材料搬出に対する梶原町水源地域森林整備交付金を1m当たり4千円に増額していただき、27年度は1万

6千m³を越える出材があり、組合製材工場への原木供給、町外への素材販売、さらにはペレット工場への原木供給も順調に行うことができました。

加工事業では、1980年に小径木処理工場を設置して以来35年が経過しましたが、加工事業を行うことで、組合による原木丸太の集荷、選木、買取事業の開始により一般林家の素材の搬出意欲の増大に繋がり、工場従業員の雇用が生まれ、関連事業者を含め地域付加価値生産高が大きくなっていると確信しております。

また平成12年の森林認証取得により、四国、関西地域の工務店等との販売ネットワークができ、家族単位や団体のバスツアーを受け入れて、伐採祈願祭や工場見学会の開催、関西方面での工務店主催の勉強会の出前プレゼンテーションなどで、邸別の受注・生産が定着したことにより、27年度も厳しい状況ではありましたが、比較的順調に生産・販売を進めることができました。

こうした状況の中で、27年度事業決算も一定の成果を上げることができました。これもひとえに国や県、梶原町ご当局並びに梶原町議会を始め関係機関のご指導とご

支援並びに組合員の皆様のご理解、ご協力の賜であり深く感謝申し上げます。

●平成28年度の事業計画

28年度の事業計画は、森林整備部門では、組合直営班の編制・育成と併せ、建設事業体、素材生産事業体、自伐林家との連携を強化して、作業道の開設・利用間伐を推進し、原木生産、取扱量の拡大を目指します。

加工・販売部門では、FSC認証ブランドによる顔の見える住宅づくりを進め、安心安全な地域産材の販売に努力をいたします。

また、28年度から隈研吾氏が設計される梶原町の福祉施設や図書館などの大型プロジェクトが開始されますので、製品の供給について関連事業者と連携して取り組んでいきます。

管理部門では「中期経営計画」を見直し実行してまいります。

人材育成を重要な課題として取り組み、林産、加工などの職員の採用を進め、ゆすはら産業担い手育成塾での研修を始め、森林施業プランナー研修や伐採・搬出、加工技術の向上、販売営業担当者などの育成を行います。

また、原木丸太やペレット原木

の取扱量が拡大して、手狭になりました山元貯木場の拡充について検討を行ってまいります。

本年度も引き続き厳しい状況が予想されますが、役職員一致結束して事業を推進してまいりますので、組合員を始め関係機関の皆様のご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

●新しい組合の執行体制

総代会終了後、組織理事会及び監事会を開催し、次の通り選任されましたのでお知らせいたします。

代表理事	組合長	森山 真二(新任)
理事	中越 利茂(再任)	
理事	下村 繁男(再任)	
理事	山口 敏(再任)	
理事	吉村満寿夫(再任)	
理事	竹倉 茂一(再任)	
代表監事	山本 浩辰(再任)	
監事	中平 俊一(再任)	
監事	片岡 幸作(再任)	
参事	西村 寿勝(新任)	

日産電気自動車 e-NV200 出発式を開催



日産電気自動車「e-NV200」

3月14日(月)役場庁舎アトリウムで、今後3年間、梶原町に無償貸与される日産電気自動車の電気自動車「e-NV200」の出発式が開催されました。

この電気自動車は日産自動車「e-NV200」が公募した「電気自動車活用事例創発事業」に町が活用方法を提案し選定された結果、貸与されることとなったものです。

当日は、日産自動車株式会社より中四国エリアカンパニーマネージャー松本秀一郎様、高知日産プリンス販売株式会社より

代表取締役社長 臼井裕喜様をはじめ4名の皆様が来町され、矢野町長に目録を、土釜議長にジャンボキーが贈呈されました。また、こども園よりぞう組の園児12名も参加し、電気自動車の仕組みについて学びました。

町では、今後、貸与していただいた電気自動車を大切に活用させていただくとともに、引き続き環境モデル都市の取り組みを通じて「生き物に優しい低炭素なまちづくり」を進めますので、住民の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。



写真：国児たちと一緒に記念撮影



写真：「集落活動センターおちめん」の除幕式の様子

集落活動センター 「おちめん」開所

3月20日（日）町内4カ所目となる「集落活動センターおちめん」の開所式典が高知県知事尾崎正直氏をはじめとする高知県関係者、町関係者、そして地域住民の方々、約100名が参加して、盛大に開催されました。

好天にも恵まれた和やかな雰囲気の中、活動の拠点施設となる「越知面遊友館」で、看板の除幕が行われた後、越知面交流センターで開所式典が開催され、「集落活動センターおちめん」の代表となる川上光章氏がお礼とこれからの活動への思いを述べられ、ご来賓としてご出席いただいた高知県知事尾崎正直氏と梶原町議会議長土釜清氏から、本センターの開所に際し、心温まる激励の言葉を頂戴いたしました。

「集落活動センターおちめん」では、絆と自立を基本とし、「地域で楽しくお金を稼ぐ仕組みづくり」、「地域住民が主体となって支え合い、助け合うことができる仕組みづくり」、「活動している地域団体の取り組みを支援し、発展につなげる仕組みづくり」の三つの仕組みづくりを進めていきます。

その第一歩として、「できることから進める」を合言葉に学生等の合宿の受け入れや、地域食材を活用した特産品づくり、集落営農の推進等の事業に取り組んでいく計画です。

この集落活動センターの取り組みを通じて、地域内にある魅力と住民の絆の力を磨き、地域経済の循環に向けた仕組みづくりによる、集落活動の維持、発展に向けて具体的な取り組みがなされていくものと期待されます。

楽しく、できない いきいき百歳体操

いつでも誰でも参加ができ、人との交流を楽しみながら気軽に筋力運動ができる場として、町内各地で「いきいき百歳体操」が実施されています。

いきいき百歳体操は1回30分～1時間程度で、椅子に座って行う体操です。手や足を動かす体操の他、立ち上がりの時に使う筋肉や重い物を持つ時に使う筋肉等、いつも使う筋肉を鍛えることで、やりづらかったことが楽にできるようになる効果があります。

また、現在、いきいき百歳体操の他にも、計算や、頭の体操もしながら運動することで脳の訓練も行う「シャキシャキ百歳体操」や、口や舌の体操を行い、おいしく食べれるようになる「かみかみ百歳体操」という体操もできており、いきいき百歳体操と合わせて行うことで、より全身に効果が出ます。これらの体操は、一度行っただけで効果が出るものではなく、継続して行うことが必要です。そのためには楽しく無理なく行えることが大切です。

運動しようと思っても1人ではなかなか続けることが難しいと思いますが、地域の皆と一緒に集まり、交流しながら行うことで楽しく継続できるのではないでしょう

か。体操ができるか自信がないという方でも、皆で集まれる場所に出てくるということが元気につながることにあります。

「近くに百歳体操を実施している場所がないけれど、これから百歳体操をしてみたい」「体操は上手くできるかわからないけど皆で集まる場を持ちたい」等ございましたら、是非、ご連絡下さい。

【お問い合わせ】

梶原町保健福祉支援センター

地域包括支援センター

☎ 65-11170



梶原町内 いきいき百歳体操実施場所

開催場所	開催頻度	時間
生活福祉センター (支援センター2階)	毎日	16:00～
総合福祉センター	週2回(火・金)	13:00～
後別当集会所	毎週水曜日	13:30～
松原ふれあいセンター	第2・4木曜日	13:30～
四万川交流センター	第2・3金曜日	13:30～
越知面地域交流センター	第2・4火曜日	13:30～
太田戸集会所	第3土曜日	13:30～

ご当地ナンバープレートのデザインを募集

梶原町では、町制施行50周年を記念して原動機付自転車（総排気量50cc以下のもの）のご当地ナンバーを作成することになり広く公募します。

募集期間

4月1日（金）～5月31日（火）

※役場必着

応募資格

どなたでも応募することができ
ます。（ただし、1人1点まで）

募集内容

①梶原町が交付する原動機付自転車ナンバーの「絵柄のデザイン」（原付50cc以下のナンバープレート（白色）に使用。）

②町内外に梶原町をPRできるデザインのもの。

③自作未発表の作品に限ります。

デザイン作成上の注意

①町のホームページまたは、総務課で配布する応募用紙により提出してください。

②町名は漢字又はひらがなとし、梶原町をPRできる文言を配置することは可。

③自賠責保険のシール（縦35mm×横35mm）を貼付するスペースを確保してください。

④ビス留めの穴の位置は変更不可。

可。

⑤手書き又はパソコンで作成してください。（使用色は5色以内）

審査結果・賞

入賞作品は、平成28年11月5日（土）に行われる「町制50周年記念式典」の中で発表します。

▽最優秀賞（1点）

賞状と商品券3万円分

▽優秀賞（2点）

賞状と商品券1万円分

注意事項

①応募作品に関する一切の権利は梶原町に帰属し、作品の返却はしません。

②採用作品は若干の変更や修正をする場合があります。

③採用後でも、著作権その他の権利を侵害していることが明らかとなった場合等は採用を取り消す場合があります。

④入賞者の発表の際には氏名及び住所の一部について公表します。

⑤応募に関する費用については、応募者負担。

【提出先及びお問い合わせ先】

〒785-10695

梶原町梶原1444番地1

梶原町役場 総務課税務係

ご当地ナンバープレート担当

平成28年度高知県警察官A

採用試験の募集について

受験年齢及び対象者

昭和57年4月2日から平成11年4月1日までに生まれた者で大卒及び大卒見込者の男性及び女性

申込み受付期間

4月11日（月）～5月23日（月）

一次試験

平成28年7月10日（日）

【お問い合わせ】

〒785-10031

須崎市山手町1-8

須崎警察署 警務課

☎0889-4210110

シルバー人材センターで

一緒に働きませんか？

シルバー人材センターでは、概ね60歳以上で働く意欲のある方を募集しています。

高齢者・独居の世帯が増えていきます。ちょっとした手助けが欲しい方々がたくさんいます。会員として自助・共助のおもいで仕事をしてみませんか？

シルバー人材センターでは

こんな仕事をしています。

一般作業（草刈・除草・清掃・

農作業等）、技能作業（庭木剪定・

塗装作業・内装等）、建物管理（宿

直・日直・受付等）、専門技術、

筆耕（宛名書き等）、その他（墓

掃除・物の置換え・電球の取替

え・他ご要望により）

なお、技能作業を希望される方

は、色々な技能講習（庭木剪定・

フォークリフト・室内装飾・パ

ソコン等）

【お問い合わせ】

梶原町シルバー人材センター

☎65-11500

林業就業支援講習の

受講者募集

林業への就業を希望する方を対象に、林業に関する座学や実習等を行います。また、チェーンソー・刈払機・小型車両系（整地等）建設機械の資格取得もできます。

期間

5月9日（月）～5月27日（金）

（土日を除く15日間）

場所

香美市土佐山田町大平80

森林研修センター

その他

受講料は無料

（受講中の宿泊費補助あり）

申込締切

4月22日（金）

【お問い合わせ・申込み】

（公財）高知県山村林業振興基金
高知県林業労働力確保支援センター

☎0887-57-0366

要約筆記者養成講座開催

聴覚障害者に文字で情報を伝える養成講座です。講座終了後、高知県要約筆記者認定試験を受験し、試験合格後に要約筆記者として活動できる18歳以上の方が対象です。

期間

5月14日（土）～12月3日（土）

の毎回土曜日

9時30分～12時30分

場所

高知市障害者福祉センター

（高知市旭町2丁目21-6）

申込期限

5月7日（土）まで、申し込み方法は、問合せ先に電話、FAXまたはメールで住所、氏名、電話番号をお知らせください。

【お問い合わせ】

特定非営利活動法人 要約筆記

高知・やまもも、担当廣田まで

▽TEL・FAX

0888-42-2519

▽メール

hikkhirota@mf.pikarane.jp

高齢者向け給付金

（年金生活者等

支援臨時福祉給付金）

「一億総活躍社会」の実現に向け、賃金引上げの恩恵が及びにくい所得の少ない高齢者の方を支援するため、高齢者向け給付金（年金生活者等支援臨時福祉給付金）が支給されます。

支給対象者

「平成27年度臨時福祉給付金の支給対象者（※）」のうち、平成28年度中に65歳以上となる方（昭和27年4月1日以前に生まれた方）。

ただし、

▽課税されている方の扶養親族となつている場合

▽生活保護の受給者である場合などは除きます。

※「平成27年度臨時福祉給付金の支給対象者」とは、平成27年1月1日時点で住民票が梶原町にある方のうち、平成27年度の住民税が非課税の方。

支給額

1人につき3万円（支給は1回です。）

申請書について

支給対象者となる可能性のある方には、3月末に申請書をお送りしています。

※申請書が届いた方が必ずしも支給対象者となるわけではありませんので、あらかじめご了承ください。

申請期間

梶原町は、平成28年4月1日から平成28年8月1日まで

※市区町村によって異なります。

申請先

梶原町保健福祉支援センター

福祉係

【お問い合わせ】

梶原町保健福祉支援センター

福祉係

☎65-1170

平成28年伊勢志摩サミット開催 テロ未然防止にご協力を！

平成28年5月26日と27日の両日、三重県志摩市の「賢島」で、主要国首脳会議（伊勢志摩サミット）が開催されます。

また、サミットに伴い全国各地で関係閣僚会議も順次開催されます。国際会議はテロを実行しようとする者にとって格好の攻撃対象になり得ることから、テロの未然防止に万全を期す必要があります。

県民の皆様が日ごろの生活の中で不審人物や不審物を見かけた場合には、警察に報告して下さるよう皆様のご理解をご協力をお願いします。

通報は110番、または須崎警察署(☎0889-42-0110)まで



5月の行事予定

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 10日(火) 梶原学園8年生職業体験(13日まで) | 18日(水) 行政相談 |
| 11日(水) 梶原学園9年生修学旅行(14日まで) | 第18回梶原町雲の上杯ゲートボール大会 |
| 12日(木) 小児健診 | 19日(木) 梶原学園6年生修学旅行(21日まで) |
| 14日(土) 環境整備デイ | 20日(金) 梶原町交通安全の日 |
| 15日(日) 西宮市・梶原町文化交流公演 | 27日(金) 梶原学園3、4年生社会科見学 |

5月の保健福祉支援センター行事予定

- | | |
|----------------------|-----------------------------|
| 6日(金) 初瀬いきいき | 18日(水) 行政相談(梶原病院3F) |
| 9日(月) げらげら家族会 | 20日(金)～21日(土) 第30回地域医療現地研究会 |
| 11日(水) 松原サテライト | 26日(木) 越知面デイ友の会 |
| 12日(木) 小児健診 | 27日(金) 四万川いきいき |
| 13日(金) 四万川託老所・東区いきいき | 29日(日) 高知県障害者スポーツ大会 |
| 17日(火) あゆみの会 | |

○毎週月曜日…予防接種(四種混合、麻疹・風疹(MR)、BCG、日本脳炎、子宮頸がん、ヒブ、小児肺炎球菌ワクチン、水ぼうそう)
※予防接種の時間が午後3時～午後4時30分になりました。(この時間の小児科の診療はありません。)

○毎週水曜日…陽だまり、育児サークル(4F講義室)

○ゆすっ子相談センター相談日…10日(火)午後、17日(火)午後、24日(火)終日、31日(火)午後

○川畑 真理子 心理カウンセラー相談日…24日(火)

●おめでた

住所	氏名	性別	出生年月日	保護者
上 成	森山 ^{あらた} 新大	男	H28.3.14	森山貴史

●ご結婚

届出時の住所	夫婦氏名	婚姻日
中 町 中 町	夫 西村 友祐 妻 中野 葉奈	H28.3.9
南 町 六 丁	夫 執行 俊彦 妻 高橋 千香	H28.3.15
太田戸 下 組	夫 中越 洸介 妻 松浦 佐喜恵	H28.3.24

●おくやみ

住所	氏名	性別	死亡年月日	年齢	世帯主
広 野	中山シゲノ	女	H28.3.2	97	本人
宮野々	上川千代美	女	H28.3.5	88	本人
東 町	坂本 町恵	女	H28.3.12	84	本人
太田戸	大野幸二郎	男	H28.3.15	86	本人
下久保谷	岡本 全子	女	H28.3.22	93	本人
松 原	田邊 槌男	男	H28.3.22	69	本人

※出生・死亡・婚姻については個人情報につき掲載の了解をいただいた方を掲載しています。

こんな“けし”を見つけたら、 福祉保健所まで連絡を！

けしの仲間には、通常4月から6月にかけて美しい大きな花を咲かせますが、その一部には、法律で栽培が禁止されているものがあり、誤って庭先などに植えられている事例があります。

お心当たりのある方は、勝手に抜かず、須崎福祉保健所までご連絡をお願いいたします。

【連絡先】須崎福祉保健所 衛生環境課 ☎0889-42-1999



不正けしの特徴

- ①花びらは一重のものや、八重のものなど様々ある赤、薄紫、白、桃などの色がある
- ②葉は互い違いに茎につき、茎を抱き込むような形
- ③葉や茎にほとんど毛がない

文芸



えびし俳句会

雛の手に歯ぶらし持たし歯科医院

氏原 陽子

寄せ植えにオキナグサ苗加えけり

西村 蓉子

少年の自転車きらり春の風

西村 幸枝

四度目の二十才葉が増えた春

大崎みなと

春炬燵心はいつも野良にあり

野中たねお

廃校や記憶を咲かす老桜

影浦 鉄心

九十九折尽きて眼下の春の海

内野 純子

菜の花や手押し車の二人づれ

下元 廣幸

春光や張りては緩む舳い綱

久岡 智子

杉の子俳句会

入学児きのうとちがう顔をして

ヒネ バンビ

家が好きひとり大好き春眠す

宇都宮由利子

春眠を吾子の重みに断たれけり

宮崎真由子

小松菜も野沢菜もみな花となる

中越 律子

ひかり降るごとく雨来て名草の芽

瀬戸口登貴恵

家の跡畑の跡あり落椿

西村 智子

金縷梅の枝一面に咲きにけり

温地あゆみ

亀みんな首伸ばしをり桜零る

千光寺昭子

庭めぐるとのしみのあり名草の芽

岩元 芙美

春眠の椅子に沈める身の軽さ

古野 節子

春眠や目覚めてほっと今日の無事

下村 弘花

園児らの懐紙にまるぶ雛あられ

下元 澄子

春禽の甲高きこゑ瀬を渡る

岩井 章子

柚子の木俳句会

珍らしとクリスマスローズ見入る客

広瀬 宗子

屹然と甲斐駒ヶ岳桃の花

広瀬 みえ

花冷えやいいことばかりありそいな

佐竹 重子

春嵐ガイド声張るジオパーク

西森 誠子

アベックの衿立て愛でる桃の花

中平 忠雄

ひざしあび桜一輪砂時計

中越 緑

桃の花一輪咲きて香りくる

中越 郁子

道の辺の歩幅の広き子猫かな

渡辺 瑞枝

桃の花新生活に何待つや

広瀬 卓雄

桃の里彩りどりの花咲きて

中越 秋子

瀬をすべる番の鴨や風光る

西村由利子

託老所陽だまり

進級の 子らの頭上に 虹の橋

メモせねば

どんな良い句も すぐ忘れ

ころばぬと

杖を頼りに

身を守る

決まったと

説明受けても

モヤモヤし

寄付のお礼

このほど、次の方からご寄付をいただきました。町ではその趣旨を十分に尊重し、有効に活用させていただきます。

紙面をもってお礼とご報告申し上げます。

ふるさとづくり寄付金として

平脇 幸雄様 (兵庫県西宮市)

鶴岡 和則様 (山口県光市)

山本 隆昭様 (北海道札幌市)

福田 祐二様 (兵庫県西宮市)

広報へのご寄付

土井 勝喜様 (広島県呉市阿賀南)

その他のご寄付

ゆすっ子・すくすくネットワーク様

子育て支援に

津野富喜子様 (仲久保)

故・津野幾馬氏逝去に伴う香典

返し社会福祉へ

坂本 隆子様 (高知市)

故・坂本町恵氏逝去に伴う香典

返し社会福祉へ

岡田 量様 (川西路)

故・岡田信一氏逝去に伴う香典

返し社会福祉へ

今井 忠光様 (大阪府吹田市)

社会福祉へ



夢・未来館 図書室だより

図書室開室時間
午前8時～午後8時

4月23日～5月12日は『こどもの読書週間』。今年の標語は

四角い本に まあるい心

子どもたちの無邪気でまんまるな笑顔、本を読みふわっと温まる心を「まあるい」と表現。たくさんの本とふれあつて優しい心が、ずっと続きますように…。また、子どもも大人も、絵本でまんまるな気持ちになつて癒されてほしい…。そんな想いのこめられた標語です。

絵本のちから 本のちからで
たくさんの心 まあるくなあれ。



一般図書



倒れるときは 前のめり

著：有川 浩

日々の生きるつれづれ、創作の裏側、大好きな本や映画、敬愛する人びと、ふるさと高知のことなど、有川浩初の今までの思いぎっしりのエッセイ集！

一般図書



一日がしあわせに なる朝ごはん

著：小田 真規子

ほとんど5分以下で作れるのに、ひと工夫ありのおいしいアイデア満載！朝起きたら、ふとんから飛び出したいくなる、フェスティバル級に楽しい朝ごはんの本です。

その他の新入荷

鍵のかかった男
著：有栖川 有栖

モノは最低限、幸せは最大限
著：メディアソフト

としょかんねずみ5
著：ダニエル・カーク

はなちゃんのみそ汁
著：魚戸 おさむ

小学生のボクは、鬼のようなお母さんに
ナスビをうらされました。
著：原田 剛

児童図書



たかこ

著：清水 真裕

ある日、ぼくのクラスに転校生がやってきた。名前は「たかこ」。十二単を着て、なんだか昔の人みたい…。「みんなちがっていいんだ」というメッセージをあたたかくユーモラスに伝えます。

編集後記

満開の桜の便りとともに、また新しい年度を迎えました。ピカピカのランドセルを背負った可愛い小学一年生の姿に思わず笑顔がこぼれます。新一年生の皆さん、ご入学おめでとうございませう。

4月は入学、進級、就職等、新しい出会いや新しい生活の始まりの季節ですね。新しい地に足を踏み入れて新生活を始める方もいるでしょう。梶原町にも新社会人の方々、梶原高校の新入生などで町外から転入された方もいると思います。

4月10日には「奥四万十博」が開幕しました。須崎市、中土佐町、四万十町、津野町、梶原町の高幡5市町村の自然や食べ物、生活の中の魅力を多くの方に知ってもらおうと開催されている旅の博覧会だそうです。

長年町内に暮らしていても知っていないような知らない場所や景色、風習などもまだまだたくさんあります。それぞれの地域の特色や魅力を知ること、その地域に親しみを持ち、またそれを町外へ発信すること、交流が生まれ、繋がりができたりします。

今年度、梶原町に転入された方々も、また私も、あらためて梶原町の魅力を発見していかれたらいいなあと感じます。 広報編集委員会